

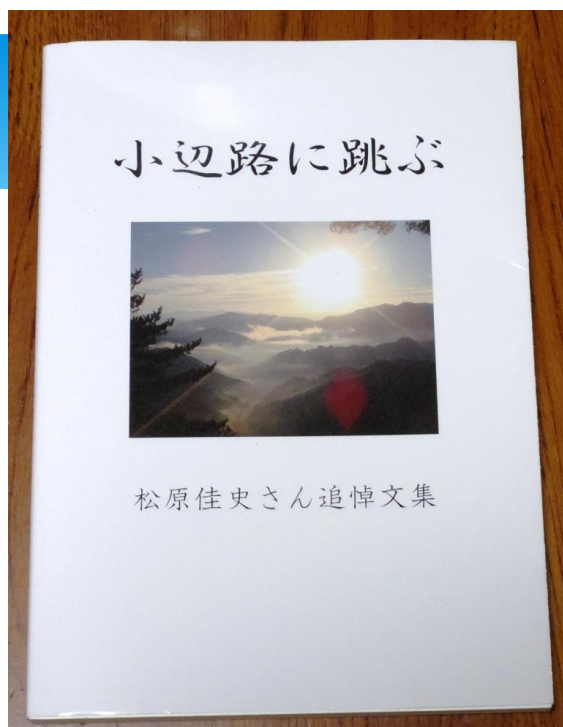
## 野迫川村役場職員 松原佳史さんの記憶

- ・追悼文集「小辺路に跳ぶ」
- ・高野山まちづくり研究会
- ・村の民俗行事「オコナイ」
- ・十津川鼓動の会での活躍
- ・紀伊半島大水害時の行動

## 松原(旧姓・木村)佳史さんの経歴

- \* 1974年1月11日 奈良県川西町生まれ
- \* 1996年3月 大阪学院大学卒業
- \* 1996年4月 奈良県野迫川村役場に就職
- \* 総務・産業、教育委員会文化担当などを歴任
- \* 2004年11月22日 松原亜希さんと結婚
- \* 2012年4月11日 不慮の事故で死去

高橋寛治・元高野町副町長ら自治体職員らと松原さん自身が書いた追悼文集。今年の命日(4月12日)発行です。



# 地域愛 忘れない

## 38歳で逝去 小辺路案内人 故松原さん

野迫川村職員として勤務する傍ら、世界遺産の熊野古道・小辺路(奈良、和歌山両県)の案内人を務めた松原佳史さんをしのぶ追悼文集「小辺路に遊ぶ」が、交流のあった仲間らの手で完成した。松原さんは2011年4月、不慮の事故で38歳で亡くなった。文集には民俗から自然科学まで友人らが寄稿し、松原さんの地域への愛情と情熱、幅広い活動ぶりを物語っている。【栗橋 暁】

### 交流 追悼文集を完成

松原さんは川西町出身。1996年に野迫川村役場勤務の大学卒業後、場に就職した。文集に収



追悼文集「小辺路に遊ぶ」

## 毎日新聞の奈良版に掲載された 追悼文集の紹介記事

にやっと文集作りに着手した」と言っている。文集には「贈る言葉」を「山深き」として12人が寄稿している。「自身体験、地域つくりの活動に携わった人、民俗・歴史、野生生物の研究者、元ジャーナリストなど多彩だ。『十津川鼓動の会』のメンバーは「小辺路の案内人は、松原さんには地域に強い関心を持つ、近隣の語り部や、十津川鼓動の会」のメンバーは「高野山町石通話部」などに参加していた」と記し、松原さん100以上の険しい峠を越える小辺路のツアーを仲間と企画し、高野山から熊野本宮本社まで3泊4日の全コースをタウンスで紹介した。小辺路は松原さんの「ライフワーク」だった。村のかかみだつたと惜しいのは2011年9月の紀伊半島豪雨で被災し、職員として対応に奔走した。追悼文集を企画したのは、松原さんが参加していた勉強会「吉野の会」のメンバー。代表は大庭 巳に住所、氏名、職町教委委員の松田慶彦、電話番号メールアドレス、氏は「こなつては、希望冊数を記して申し込みの原稿が必ず、作手

## 村おこし情熱 無念の事故死

### 野迫川村住民課 38歳・松原さん



野迫川村住民課職員の松原佳史さん(38)が12日朝、村役場前の小川で遺体で見つかった。村おこしに熱心だった職員の早すぎる死を関係者が悼んだ。村によと、首の骨が折れて即死状態だった。来客用駐車場の横から4.5下の岩場に転落したらしい。

川西町出身。1996年に入庁し、夜に開かれる地域文化や地方自治など様々な勉強会や世界遺産の熊野古道・小辺路の語り部に参加した。北今西地区の正月行事「オコナイ」にも毎年のように加わり、多くの研究者やカメラマンを呼び寄せた。昨年9月の台風12号では、「命からがら逃げた人もいる。当村も大変な状況を知ってほしい」と村の惨状をメールで記者や他の自治体職員に伝えた。角谷喜一郎村長は「公私にわたって村をアピールしてくれた。大きな損失だ」と悔やんだ。(神野武美)

(朝日新聞 2012年4月14日付)

## 神野武美が、朝日新聞奈良版に 書いた記事





北今西の方たちと「そよな節」をうたう松原佳史さん(右から 2 人目) = 2012 年 1 月 2 日

### 太宰の南山中と熊野古道

野迫川役場住居蔵(奥喜おひきをネツト)の松原佳史

花新塚近くの熊野台から新立集落(北西)を望む

熊野古道の南山中と熊野古道。松原佳史さんが平群町のミニコミに書いた熊野古道の紹介記事の抜粋。

熊野古道の南山中と熊野古道。松原佳史さんが平群町のミニコミに書いた熊野古道の紹介記事の抜粋。

熊野古道の南山中と熊野古道。松原佳史さんが平群町のミニコミに書いた熊野古道の紹介記事の抜粋。

花新塚近くの熊野台から新立集落(北西)を望む

熊野古道の南山中と熊野古道。松原佳史さんが平群町のミニコミに書いた熊野古道の紹介記事の抜粋。

熊野古道の南山中と熊野古道。松原佳史さんが平群町のミニコミに書いた熊野古道の紹介記事の抜粋。

熊野古道の南山中と熊野古道。松原佳史さんが平群町のミニコミに書いた熊野古道の紹介記事の抜粋。

松原さんが平群町のミニコミに書いた熊野古道の紹介記事





